熱血先生さあスタート

中央大学を巣立ち、
今春から中学・高校で
「先生」と呼ばれる
教員採用試験合格者の
祝賀・激励会が
1月20日夜、
多摩キャンパスで開かれた。

教員採用試験合格者祝賀・激励会

先生がずらり並んで記念撮影

合格者は64人（届け出実数）で法、文、理工各学部生、大学院生、卒業生、科目等履修生ら。首都圏、茨城、新潟、長野、愛知などの公立、私立校で教壇に立つ。

この夜出席したのは29人。フレッシュな顔が並んだ会場で、都筑学・文学部長（教育職員養成に関する運営委員会委員長）が式辞を述べた。「師は教えることで学んでいくといいます。さまざまなことにチャレンジして、一回りも二回りも成長してほしい」

酒井正三郎総長・学長は祝辞で「信頼される教師になって、教師人生を力強く歩んでほしい」とエールを送った。乾杯では林勘市常任理事が「立派な教師になることが中央大学への貢献です。大いに活躍してください」と話し、グラスを高らかに上げると約60人が集まった会場はがぜん盛り上がった。

新人先生たちはその後、ひな壇でひと言ずつ抱負を述べた。「常に笑顔でいたい」「生徒の立場で考え、生徒に寄り添える先生になりたい」「誰よりも熱い先生に」「この先生に会えてよかったと言ってもらえるように」「体育教師に負けないくらいパワフルな先生になります」「校長を目指します」「特別支援が必要な生徒や外国籍の生徒に居心地のいい環境をつくりたい」「滑舌をよくしたい」など希望あふれるコメントが相次いだ。

現職で教える中大の先輩先生2人からは、いたわりと激励の言葉が寄せられた。「皆さん、ご自分のメンタルにも気をつけて。何かあれば遠慮なく相談してください」「大変な職業です。難しくて忙しい。でも一生懸命にやれば必ずかえってきます。生徒は見ています」

この4月、中大卒の熱血先生がスタートラインに立つ。